

厄年儀礼の特徴・変遷及びその地域活性化に活かす方策 —岐阜市の池ノ上みそぎ祭りを事例として

尤 銘 煌

(山形大学基盤教育院)

1. はじめに

「禊」は、神事の一つで心身を清め、罪、災い、厄などを払い落とす儀式として古くから日本各地で行われてきた。「禊」を伝統的な民俗行事として「水に流す」、「火を越す」、「祓麻を用いる」などいろいろな方法を用いて行われてきた。禊の起源は、『古事記』に記されているように伊耶那岐命（いざなぎのみこと）が黄泉の国から戻った際に穢れを払い清めるために筑紫日向橘小戸の阿波岐原で行ったものとされている。この思想もまた、日本人の日常生活の中で一つの重要な慣習になっている。毎年、大晦日に大勢の日本人が神社へ行って、「禊」をして、一年の穢れを祓って、翌日、お正月になると純粋、無垢、真っ白な人間になると古くから考えられている。3世紀末に中国の『三国志』の「魏志倭人伝」に「始め死するや停喪十余日、時に当りて肉を食わず、喪主は哭泣し、他人は就きて歌舞、飲食す。己に葬らば拳家水中に詣りて澡浴し以て練沐の如くす」と記載されている。即ち、倭人に関する社会、風俗などに「禊」について「人が亡くなってから10日間余りの間は肉を食わず、人々がお酒を飲んで歌舞をする。そして埋葬してから皆で水に入って身を清める」と「禊」を思わせる記述がある。また、古くから旧暦の十月は、神様が一斉に出雲大社へ出かけて行くために日本各地の神社には、神様は留守になり、「無神月」と呼ばれた。神様がいない間は村の人々が自ら川で身を清めながら地域の繁盛や家内安全などを祈願した。そのため、一般的に「禊」は、旧暦の十月の晦日に行なわれる。

一方、波平恵美子は通過儀礼におけるハレ、ケとケガレの理論を創り出した。穢れは「汚れ」とも書く。死、疫病、出産、月経などによって生じると信じられている不浄感である。日本における穢れを祓うという観念は古くから存在していた。波平の理論をまとめてみるとケ、ケガレ、ハレは循環する。即ち、普段の日であるケをそのままの状態で放置して行くとだんだん気が枯れてしまう。所謂、ケガレの状態である。そのケガレの状態から脱出するための手段としてハレが用いられる。ハレは元気をつけてくれる日である。このような考え方はわれわれ普段の生活によく見られる。例えば、毎日仕事をすると疲れて退屈してしまう。しかし、祭日に家族を連れて郊外へ旅行すると今まで連続してきた仕事の疲れが取れる。そして、また、元気で仕事が続けられる。同様に、神事と係わる人生における「ハレの通過儀礼（七夜、初誕生、初節句、七五三、結婚式、厄年、長寿祝いなど）」はわれわれの活力を取り戻してくれる。当然、日本全国の各地で行っている祭りもハレの一つと考えられる。祭り

（ハレ）は、地域の活性化と強く結びついていることは、言うまでもない。

現在、日本各地で行っている「裸祭り」も「禊」の一種で「禊祭り」とも言われるところもある。本調査研究は、岐阜市「池ノ上みそぎ祭り」を取り上げて厄年儀礼という伝統文化の継承を図り、地域の振興に繋げることを目的とする。また、岐阜県長良川の地域では、古くから水害の被害が多かったため、厄年儀礼が他地域より発達している。「池ノ上みそぎ祭り」の調査により日本人の深い心に潜んでいる強い厄払い意識を検証する良い事例と思われ、それを明らかにする意義は大きい。本論の調査方法について以下のように三つの方法で行った。1. 地元の人々に聞き取り調査を行う。2. 現地のみそぎ祭りに参加して観察調査を行う。3. 資料の調査、分析：厄年や「池ノ上みそぎ祭り」などに関する町史や資料から分析する。

2. 岐阜市の池ノ上町の葛懸神社の神事「みそぎ祭り」を事例として

岐阜市の池ノ上町の葛懸神社の神事「みそぎ祭り」は、毎年12月の第2土曜日に15時、19時及び22時と夜中まで3回に分けて長良川で行われる。官司たちのお祓い儀式が終わるとともに鉢巻に禪の姿の厄男を中心とした数百名の裸男が正禰宜（神男）を囲んで葛懸神社から練り歩いて長良川に入る。川に入ってから男たちが勢いよく水を掛け合いながら、手を合わせ、家内安全、一族隆盛を祈願し、厄払い（禊）が行われる。禊祓いを済ませると裸男たちが川から上がり、神男を護衛しながら、神社の拝殿まで運ぶ。

岐阜市の池ノ上町の「みそぎ祭り」の歴史は、六百年以上があると伝えられている。その起源は、不詳であるが、応永年間の飢饉により重視されたとの一説があった。また、天文三年（1534年）に水災より長良川が出来るまでには、「みそぎ祭り」は、葛懸神社の前の大池で行われていたと伝えられている。慶長十六年（1611年）、寛永十三（1636年）にも水災があったと伝えられている。また、寛政年間（1789～1801年）に25世帯の氏子が厄避け及び豊作祈願のために旧暦10月30日夜から夜明けまでに3回みそぎを行ったことも伝えられている。大正時代には、「みそぎ祭り」は、「ハダカ祭」、「厄除祭」、「神迎祭」、「水取祭」、「蕎麦切祭」などとも称されている。水害が多いため、蕎麦の栽培が多かった。祭り期間には、神社の前に蕎麦を売る店が多かったためである。もともと祭りの参加者は、全員素裸であったが、陋習として明治政府により明治5年に禁止された。しかし、七戸全焼の火災事件後、疫病流行などの災害及び神社敷内にある神樹の大藤樹が花咲かないことが続いて発生したので、明治7年に祭りが復活した。そして大正3年から参加者が禪を使うようになった。以上のように池ノ上は、古くから水害、飢饉、疫病などの災害によく見舞われた貧しい村だった。そのため、「みそぎ祭り」は、池ノ上の住民たちにとって自分の罪を払い清めて村の繁盛を祈るのみではなく全ての災害から逃れるための大切な伝統祭儀である。

厄年儀礼の特徴・変遷及びその地域活性化に活かす方策
—岐阜市の池ノ上みそぎ祭りを事例として

2-1)「みそぎ祭り」の主な運営、準備過程について

明治・大正時代では、「みそぎ祭り」の運営は、若連中、青年会、青年団が行われたが、昭和30年頃から町内会に移された。現在では、宮司、氏子、禰宜、副禰宜などの中心役員である「みそぎ祭り祭典委員会」が「みそぎ祭り」を取り仕切っている。「みそぎ祭り祭典委員会」の委員はそれぞれ祭典本部、受付、社頭受付、警備本部、禰宜世話、祭元、奉納掲示、篝火、河川警護、飛火警護、裨男警護及び餅棚警備、しめ縄作り、笹竹準備、笹竹販売、写真、演芸などの部門に分けられている。委員は、約100名にも及ぶため、地域社会にとって一つ大きな共同組織である。正禰宜（神男）は、「みそぎ祭り」の中心人物である。正禰宜の候補者は、池ノ上の氏子に限定しておみくじで選ぶことになっている。昭和30年から正禰宜の仕事の負担を減らすために副禰宜を新置した。副禰宜の候補者は、池ノ上の氏子に限定せず他地域の住民から選ぶことができる。正禰宜に選ばれた人は、祭りの3日前から心身を清めるために参集殿でのお籠りを行わなければならない。昔は、お籠りは正禰宜の家か公民館で1週間行った。副禰宜は、参集殿のお籠りは要求されない。正禰宜は、第1回と第3回目のみそぎを担当し副禰宜は、第2回目のみそぎのみを担当し、神迎祭の供え物を調理し供える。平成24年度「みそぎ祭り」の準備・祭典日程及び主な内容は以下である。

10月14日 池ノ上神社境内整備、氏子総代会

10月21日 第1回みそぎ祭り祭典委員会（役割案及び日程の審議）

11月04日 鉢巻たたみ（参集殿）女性部

11月10日 奉賛会合（参集殿）氏子総代、有志

11月13日 役所挨拶、届出書類提出、正・副禰宜記者発表

11月18日 第2回みそぎ祭り祭典委員会（役割案及び日程の決定確認）

11月28日 公民館のお祓い

11月28日～30日 注連縄作り、氏子総代、神社委員、禰宜経験者

12月02日 町内氏子総出奉仕、笹竹整理、幟を立てる

12月02日～3日 神社委員が奉納金の願いに伺う

12月04日 お下がり袋詰め

12月06日 笹餅作り 女性部、子ども会、育成会、民生委員など

12月05日～7日 正・副禰宜のお籠り（お籠り期間には、肉食を禁止、別火で自炊したものしか食べない。お籠り場所には、女性の入室を厳禁し、みそぎ祭りに備え心身ともに清める。また、お籠りの期間に漆の木で祭り用の杓子1本と箸5膳を作らなければならない。）

12月08日（土）午後1時半 みそぎ始祭：参加者たちが祈祷を受けてから小学生の巫女が神楽舞で奉納される。行列順：1. 先導役：総代会長 2. 神職人（祓塩役、切麻役、大

麻役） 3. 巫子 4. 奉賛会長 5. 副禰宜（大麻を持つ竿六尺、美濃紙一帖） 6. 神主（祓司） 7. 裸の子ども 8. 裸の大人（禰宜が中心に）

午後3時 第1回みそぎ

午後4時 奉納の餅撒き、演芸（池ノ上公園、祭元前）

午後7時 第2回みそぎ

午後10時 第3回みそぎ（みそぎが終わると禰宜が神迎祭のための御神供作りと直会を準備する。）

12月09日（日）深夜 零時 神迎祭（昔では、神無月と言われる旧暦10月晦日に長良川で行われたが、現在では、第3回目のみそぎを終わった午前零時過ぎてから行うことになった。祭典委員長、宮司、祭員（神職）、正・副禰宜、総代会長、責任役委員、副委員長、総代役員などのならび順で皆それぞれが和紙の三角形マスクを御神供様（イワシ2尾、大根一つ、御神供様、漆の箸一組）を持って神様に供える。神事が終わると参列者が小さい土器の御神供様を食べてから空になった土器を壁にぶつけて割るという厄逃れの呪術行為を行う。そして直会が開催される。参列者が御神供様の残り、豆腐とネギが入ったスマシ汁を頂く。）

12月9日 午前10時 大祭（全ての厄を払い流すように神の供え物として鯉を長良川に放流する。）大祭後 御祈禱札の整理、後片付け、反省会

2-2)「みそぎ祭り」と地域の連携及び活性化について

「みそぎ祭り」を実行するに当たって、地元の住民たちが互いに協力し合って行う準備から話し合い、執行、片付けまでなど一連の作業を通じて地域の連帯感及び団結力を高めることができる。祭り当日の飛び入り参加が認められているので、参加者のはちまき及び「みそぎ祭」と書かれた越中褌は、地元の人々の共同作業によって事前に用意され、無料で提供される。また、神社に奉納されるしめ縄、笹竹及び祭り当日に販売される笹餅とみそぎそばも地元の人々によって事前に準備される。以上のように地元の人々の力を合わせることを通してこそ、この祭りが成し遂げられる。

そして、以下「昭和47年～平成24年度池ノ上みそぎ祭りの参加者と見物客一覧表」、「平成22年～平成24年度都道府県別等の参加者リスト」及び「平成24年度葛懸神社みそぎ祭り収支決算書」にみえるように、県内外から参加者や見物客がたくさん町に訪ねて来ることによって地域の振興にも多に役に立つ。その他、祭りの寄付金や運営金の一部が教化費として地元の団体（自治会連合会、公民館、子ども会育成会、水防団、消防団、市民消防隊、体育委員会、交通安全協会）に還元され助成することによって地域の活性化にも繋がっている。また、新聞やテレビなどの全国・地域メディアを通して大いに「みそぎ祭り」が宣伝され町や

厄年儀礼の特徴・変遷及びその地域活性化に活かす方策
—岐阜市の池ノ上みそぎ祭りを事例として

神社が知られた。「男衆「みそぎ」氣勢上げ川へ」、「寒風なんの厄払い 岐阜市でみそぎ祭り」などのタイトルで朝日新聞や岐阜新聞などに掲載されたのは、その一例である。¹その他、こどもの神男を中心にした約100名の地元の小学生たちも大人と同じように鉢巻に禪の裸姿で祭りに参加して長良川にも入って禊をする伝統文化の伝承の実践教育の機会を与えることになる。

参加者と見物客の数が年々増えていることは、以下の一覧表で明らかである。平成8年に参加者の284名から平成22年に564名までに増えた。そして見物客は、4,000名から8,400名までも増加した。一方、平成24年には、「みそぎ祭り」当日に日本全国が冬一番の寒波に見舞われた。岐阜市では、初雪となり、祭りの時に気温は、4.1度で寒さの中で参加者と見物客がそれぞれ383名と5,800名までに減少した。「みそぎ祭り」の参加者、見物客数は、天気により大いに左右されていることが分かった。また、都道府県別の参加者表をみると参加者は、地元の岐阜県、市及び近隣の愛知県が中心であるが、全国の各都府県から多数の参加者も見られた。「みそぎ祭り」の名は既に全国各地で広がっているのではないと思われる。

表1 池ノ上みそぎ祭りの参加者と見物客一覧表

単位：人、子ども含む

年次	第1回	第2回	第3回	計	見物客	備考
昭和47年	193	96	35	324		12月10日(日)
昭和48年	73	166	34	273		12月10日(月)
昭和49年	96	151	48	295		12月10日(火)
昭和50年	117	168	78	363		12月10日(水)
昭和51年	116	165	48	329		12月10日(金)
昭和52年	162	170	57	389		12月10日(土)
昭和53年	271	184	67	522		12月10日(日)
昭和54年	151	213	72	436		12月10日(月)
昭和55年	192	194	72	458		12月10日(水)
昭和56年	281	235	85	601		12月10日(木)
昭和57年	235	251	118	604		12月10日(金)
昭和60年	135	187	84	406		12月10日(火)
昭和61年	110	185	88	383		12月10日(水)
平成元年	194	140	42	376		12月10日(日)
平成2年	128	150	80	358		12月10日(月)
平成3年	129	164	70	363		12月10日(火)
平成4年	147	137	78	362		12月10日(木)
平成5年	135	119	76	330		12月10日(金)
平成6年	198	132	77	407		12月10日(土)
平成7年	175	126	67	368		12月10日(日)

¹ 「男衆「みそぎ」氣勢上げ川へ」朝日新聞、朝刊、2008.12.14

「寒風なんの厄払い 岐阜市でみそぎ祭り」岐阜新聞、朝刊、2012.12.9

山形大学紀要（人文科学）第18巻第3号

年 次	第 1 回	第 2 回	第 3 回	計	見物客	備 考
平成 8 年	114	100	70	284	4,000	12月第 2 土曜日
平成 9 年	128	128	86	342	4,800	同上
平成10年	133	116	77	326	4,600	同上
平成11年	162	104	57	323	4,500	同上
平成12年	158	120	91	369	5,200	同上
平成13年	180	115	78	373	5,200	同上
平成14年	166	126	100	392	5,400	同上
平成15年	141	119	114	374	5,200	同上
平成16年	185	105	97	387	5,400	同上
平成17年	173	91	110	374	5,200	同上
平成18年	139	85	97	321	4,500	同上
平成19年	182	104	98	384	5,800	同上
平成20年	203	92	100	395	6,000	同上
平成21年	243	146	98	487	7,300	同上
平成22年	313	154	97	564	8,400	同上
平成23年	273	151	95	519	7,400	同上
平成24年	205	90	88	383	5,800	同上
平均	172.1	140.5	80.1	392.6	5,465	同上

データ出典：葛懸神社みそぎ祭り・責任役員／氏子総代会長／祭典委員長 北川 英 2013.12.13

表 2 平成22年～24年度 都道府県別等の参加者リスト

	第 1 回	第 2 回	第 3 回	計		第 1 回	第 2 回	第 3 回	計
岐阜市	545	231	195	971	神奈川県	6	4	2	12
岐阜県	66	76	28	172	千葉県	7	4	3	14
愛知県	65	24	15	104	茨城県	4	3	3	10
三重県	6	5	5	16	北海道	3	2	0	5
静岡県	6	4	3	13	広島県	5	3	1	9
福井県	3	1	1	5	埼玉県	2	1	0	3
山梨県	1	1	0	2	青森県	1	1	1	3
長野県	7	5	4	16	富山県	0	1	1	2
新潟県	3	3	3	9	熊本県	2	0	0	2
滋賀県	10	5	1	16	香川県	0	1	0	1
京都府	4	1	1	6	兵庫県	4	2	0	6
大阪府	16	5	4	25	外国	9	2	0	11
東京都	15	8	6	29	不明	0	1	1	2
高知県	1	1	0	2	合計	791	395	280	1,466

データ出典：葛懸神社みそぎ祭り・責任役員／氏子総代会長／祭典委員長 北川 英 2013.12.13

厄年儀礼の特徴・変遷及びその地域活性化に活かす方策
—岐阜市の池ノ上みそぎ祭りを事例として

以下、平成24年度葛懸神社みそぎ祭り収入明細（表3）を見ると、奉納金の収入（4,974,080円）は、全収入（5,806,809円）の85.7%以上を占めている。特に町内以外の外部奉納金の収入（3,973,080円）が大きい。個人、法人ともに祭りに対する寄付意識が強いと思われる。奉納者の名前が神社の入り口にかかけられるため、法人にとっては、宣伝効果も見込めると言えよう。岐阜市及び（財団）岐阜観光協会の補助金（140,000円）は、全収入の僅か2.4%にすぎない。岐阜市は、地域の祭りに対する財政的なサポートが少ないことが分かる。他、社頭収入（342,467円）と土産品売上金収入（343,500円）は、両方とも全収入の約5.9%でしかない。奉納金の収入が「みそぎ祭り」の経済基盤を支えていることが明らかである。

一方、支出の部（表4）を見ると祭祀費用（2,219,126円）が全支出（4,880,326円）の半分近く45.4%を占めている。祭祀費用の内訳を見ると、祭祀報酬（480,000円）、社務費（350,000円）、そして授与品費（323,705円）が最も高く、それぞれ祭祀費用の21.6%、15.8%、14.6%である。表4の祭祀報酬、社務費はいずれも「みそぎ祭り」を行っている宮司と神職・楽人・救護の人件費であり、人件費の全支出に対する割合が高いと考えられる。その他、参加者への記念品であるみそぎタオルとみそぎそばの授与品費は、祭祀費用の14.6%である。

また、祭典費（1,677,815円）が全支出（4,880,326円）の34.4%を占めている。祭典費の内訳を見ると参加者における鉢巻、裃、晒、テープ、新モスの授与品費（408,350円）は一番高く、祭典費の24%に上る。そして祭典振興費（731,445円）が全支出の僅か1.5%に過ぎない。その内訳を見ると協力費（316,500円）と教化費（276,800円）の支出が最も高い。協力費は、奉納金の勧誘をしてくれた人に対する人件費と考えられる。教化費は、地元の団体に対する助成金である。

平成24年度葛懸神社みそぎ祭り収支決算書

前年度繰越金：1,896,463円 収入金額：5,806,809円 支出金額：4,880,326円

祭運営資金積立金：1,000,000円 収支差引残高：1,822,946円

表3 平成24年度葛懸神社みそぎ祭り収入明細

科 目	本年度決算額	前年度決算額	比較増、減(△)	摘要
補 助 金	140,000	140,000	0	岐阜市・(財)岐阜観光C協会補助金
奉 納 金	4,974,080	4,927,000	47,080	外部奉納金 3,973,080(3,895,000) 町内奉納金 1,001,000(1,032,000)
社 頭 収 入 金	342,467	394,438	△51,971	御祈禱料・御神符 223,500(276,600) 御賽銭 118,967(117,838)

山形大学紀要（人文科学）第18巻第3号

科 目	本年度決算額	前年度決算額	比較増、減(△)	摘要
土産品売上金	343,500	346,500	△3,000	笹餅600本 300,000 みそぎそば87袋 43,500
雑 収 入 金	6,762	6,674	88	特別奉納者返還金 6,500 受取利息 262
合 計	5,806,809	5,814,612	△7,803	

表4 平成24年度葛懸神社みそぎ祭り支出明細

科 目	本年度決算額	前年度決算額	比較増、減(△)	摘要
祭祀費(小計)	2,219,126	2,186,596	32,530	
神 符 費	217,175	235,720	△18,545	大麻、御礼、御守など
神 饌 費	34,100	30,922	3,178	御供え物、榊
授 与 品 費 ²	323,705	455,311	△131,606	みそぎタオル、みそぎそば
祭 祀 報 酬	480,000	475,000	5,000	神職・楽人・救護の謝礼
社 務 費	350,000	350,000	0	宮司謝礼、社務所事務謝礼
消 耗 品 費	256,336	91,367	164,969	木札、雪駄、E T インク、 B 紙など
賄 費	66,445	56,272	10,173	寿し、昼食、弁当、茶菓子
印 刷 費	81,360	78,924	2,436	案内状、領収書、奉納帳、 コピー代など
修 理 費	0	148,000	△148,000	(太鼓修理)
備 品 費	134,350	0	134,350	富士通 P C、石油ストーブ
通信運搬費	35,200	66,020	△30,820	はがき、タクシー代
雑 費	240,455	199,060	41,395	奉納札毛筆料、袴等クリー ニングなど
祭典費(小計)	1,677,815	1,643,035	34,780	補助金対象
神 酒 費	49,038	65,982	△16,944	清酒48パック
授 与 品 費 ³	408,350	316,016	92,334	鉢巻、褌、晒、テープ、新 モス
撒 餅 費	336,000	336,000	0	紅白撒餅・一合餅 = 8 俵
祭典謝礼金	90,000	100,000	△10,000	北消防団島分団・船頭など のお礼
会費&使用料	12,300	12,300	0	岐阜観光C協会会費、道路 使用料
設 備 費	319,975	275,440	44,535	みそぎ場整備、餅棚設置、 電気設備工事
直 会 費	21,368	33,930	△12,562	豆腐、漬物など祭元食材、 つまみなど
消 耗 品 費	53,577	25,212	28,365	脱衣カゴ、P C インク、紙 コップなど
賄 費	242,092	214,200	27,892	反省会・弁当など
印 刷 費	6,075	125,815	△119,740	写真プリント代
保 険 料	84,305	88,580	△4,275	賠償責任保険、傷害保険

² 参加者の記念品である。

³ 参加者へ祭り当日、身に付けるものである。

厄年儀礼の特徴・変遷及びその地域活性化に活かす方策
—岐阜市の池ノ上みそぎ祭りを事例として

科目	本年度決算額	前年度決算額	比較増、減(△)	摘要
雑 費	54,735	49,560	5,175	公民館清掃、振込手数料など
祭典振興費 (小計)	731,445	688,725	42,720	
土産品仕入費	138,145	140,225	△2,080	紅白笹餅1,800個、みそぎ そば87袋
教 化 費	276,800	225,000	51,800	団体助成金8、伊勢神宮参 拝、島部会費
協 力 費	316,500	323,500	△7,000	町内奉納金協力金、丸特謝 礼金
繰 出 費	251,940	785,700	△533,760	一般会計へ 241,440 境内整備事業会計へ 10,500
総 計	4,880,326	5,304,056	△423,730	

データ出典：葛懸神社みそぎ祭り・責任役員／氏子総代会長／祭典委員長 北川 英 2013.12.13

2-3). 池ノ上みそぎ祭りの課題及び困難点について

地域の宗教、文化及び歴史背景の中で祭りは、伝統文化の継承を通して地域の絆を深め、郷土意識を高め、そして地域共同体の一体感を育むことができるなど重要な役割を担っている。特に地域の年輩者たちにとって祭りは、心のよりどころの、一つ重要な地元のコミュニティー活動であるとも言える。全国的に見られる問題だが、池ノ上みそぎ祭りにも当てはまることとして次の a, b, c 三つが挙げられる。しかし、それだけではなく、d, e のように池ノ上みそぎ祭りに特有の問題も見られる。

a). ライフスタイルの変化：

昔の農業社会に代わって現代社会では、若い人はほとんど会社に勤めている。農業と異なり簡単に会社を休むことができない。ライフスタイルの変化によって時間のゆとりがない若者にとって祭の負担は大きい。特に神男になるとお籠りなどで身心のストレス以外に時間がかなり制約されるので、若者がだんだん祭りを嫌遠していく傾向が見られる。

b). 科学技術の進歩に伴ったレジャーの変化：

現代では、科学的に根拠がないと人々が納得して動こうとしない方に向かっている。神様という神秘的な形で行動するということが理解できず、若者から離れていくことが多くなった。また、IT産業の進化によって一つの小さなスマートフォンを手の平に置けば、どこでも、いつでも、誰でも気軽に世界の人々と繋がり、世界中の情報を取り入れられる。祭りは、村の中心的なレジャーとした時代と代わって若者がだんだんネットレジャーに飲み込まれている。

c). 経済の衰退。費用の再考：

1990年代初めに、日本は、高度経済成長期からバブル経済へ移行した。それから、「失われた20年」と言われた日本の経済は、長期間にわたって地域の経済低迷が続いてきた。一般市

民の財布にも直撃した。経済の衰退によって祭りの奉納金集めも厳しくなってきた。寄付によって経済基盤を支えている祭りは、費用の再考対策が講じられる。

d). 少子高齢、過疎化：

昔と比べて池ノ上地区では、高齢化率が高まる一方、子どもの数が年々減少している町全体の過疎化が進んだため、祭りを担う人口も少なくなってきた。子どもの数の減少により、平成25年に巫女舞を取り消すことになった。過去、激しい競争者の中で禰宜（神男）に選ばれた者は、名誉、幸運と言われたが、今では、禰宜の候補者がなかなか見つからないのが、現状である。祭りの中心人物である禰宜の候補者が現れなければ、祭りの存続も危うくなりかねない。一方、「みそぎ祭り祭典委員会」の役員は、ほとんどが高齢者である。2014年度「みそぎ祭り祭典委員会」の6名の役員中、1名は60代前半で他5名は全員70歳以上である。若い継承者を育てることが急務である。

e). 宗教心の希薄、洪水氾濫の改善などで神頼りの祈願理由が減少：

「宗教観」をテーマとした読売新聞社の年間連続調査「日本人」からは、「宗教を信じている」が26%で、「宗教を信じていない」の72%が大きく上回った。⁴宗教の信仰心は薄くなっている現在では、若者が神事に関する祭りの関心度も低くなってきた。また、明治から昭和にかけて長良川によって度重なる水害が村民に甚大な災害をもたらした。特に昭和34年から36年に連続3年間の台風、豪雨などによって村にもたらした被害が大きかったが、平成に入ってから堤防などの水害対策工事が次々と完成された。水害は、昔と比べるとかなり減少してきた。そのため、「みそぎ祭り」を通した神事の祈願理由も少なくなった。

2-4). 池ノ上みそぎ祭りの課題、困難点について考えられる対策：

ライフスタイル、科学技術の進歩に伴ったレジャーなどが大きく変化してきた現在社会では、祭りにおける本来の意義と役割も大いに変わった。時代の流れに合う祭りがだんだん求められるようになってくる。

a). 開放される祭り：

平成24年度では、正禰宜の候補者が少なかったため、選出は、難航であった。禰宜の候補及び「みそぎ祭り祭典委員会」は、村以外の人々にも広く開放すべきである。特に「みそぎ祭り」を末永く継続するために「みそぎ祭り祭典委員会」の役員は、若い人にも登用することが望ましい。若い人に文化の伝承を育てることが大事であると思われる。

b). 外国へのアピール：

国際化が急速になってきた現在では、日本に訪れに来る海外の観光客が年々増え続けてい

⁴ 「宗教心静かに息づく－宗教観本社連続世論調査」読売新聞、朝刊、2008. 5. 30.

厄年儀礼の特徴・変遷及びその地域活性化に活かす方策
—岐阜市の池ノ上みそぎ祭りを事例として

る。日本文化の原点である「みそぎ祭り」は、外国人にとって非常に魅力的な祭りであると考えられる。Youtube、Facebook、Web-sideなどのソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)を利用して「みそぎ祭り」の記事やビデオを載せることによって情報を広く国内外に広報する。「みそぎ祭り祭典委員会」は、外国人の会員も取り入れて、現代の日本相撲と同じようにもっと外国人定住者や外国人観光客をアピールすべきである。

c). 地元に祭りの意義を再教育：

「みそぎ祭り」の原点である村の災害を避けること及び村民の繁盛を祈願することを村の人々に広く再認識してもらうことが大事である。「みそぎ祭り」の歴史、内容、意義に関する講義を村の小・中・高校で開講したり、市民のセミナー講座で開催することなどが望ましい。

d). 移住に力を入れること：

村自体が独自の少子高齢化対策を求められる。移住者に対するインセンティブなものが必要である。例えば、移住者の子どもに保育料・入学費半額、生活費補助などが考えられる。若い町民を増やさない限り、「みそぎ祭り」など村の伝統文化の伝承が危惧される。

e). その他：

「みそぎ祭り」の中心役を果たしているのは、裸男たちである。また、祭典委員長の北川雅宏が提供してくれた「平成25年度「みそぎ祭り」祭典委員役割表」のデータを見ると、それぞれ担当委員の男女比率は以下のようになっている。

「平成25年度「みそぎ祭り」祭典委員役割表」

	役員役割	男性数	女性数		役員役割	男性数	女性数
1	奉 賛 会 長	1	0	12	奉納掲示	10	5
2	欄 宜	3	0	13	篝 火	6	0
3	責 任 役 員	4	0	14	河川警護	2	0
4	副 委 員 長	5	0	15	飛火警護	2	0
5	事 務 局	2	0	16	裃男警護及び餅棚など警備	25	0
6	祭 典 本 部	16	7	17	ノ 縄作り	20	0
7	受 付	4	0	18	笹竹準備	6	0
8	社 頭 受 付	14	0	19	笹餅販売	0	33
9	警 備 本 部	3	2	20	写 真	3	0
10	欄 宜 世 話	6	0	21	演 芸	2	0
11	祭 元	20	0		合 計	154	47

以上の委員役割表を見ると女性の役割は、主に19. 笹餅販売、6. 祭典本部、12. 奉納掲示と9. 警備本部である。平成26年度より「みそぎ祭り」における笹餅販売を廃止したので、女性の役割がさらに少なくなった。男女平等法の観点から見ると女性の役割をもっと考えなければならないだろう。他担当部分にもっと女性委員の数を増やすことが必要である。10. 欄宜

の世話（裸男が祭りの前の三日間「お籠り」をする時の世話）、17. しめ縄作りなど、女性が役割を持つことがすぐには難しいと考えられるものもあるが、7. 受付や20. 写真、21. 演芸など、比較的受け入れられやすいところから始めることが可能ではないだろうか。村の共同意識を構築するために男女とも役割のバランスを配慮する必要があると考えられる。そして観光客や村の人々をもっと祭りに引き付けてもらうために、祭りを見せ物だけにとどまらないこと、そして日常から離れることももっと工夫しなければならない。

3. おわりに

吉川雅章は、冬期間を中心に行っている全国各地の裸祭りにおける裸姿の主な目的を1. ストレス発散、2. 身体的自由、3. 伝播、4. 群集心理、5. 禊、6. 通過儀礼、7. 厄落としなどと説明した。また、神の靈魂を身につけて神に仕えるために裸というもっとも神聖な姿が求められるとも言われる。いずれにせよ、裸祭りは、日本人の原点を辿り、日本文化において欠かせない伝統儀礼であることは、言うまでもない。

一方、池ノ上みそぎ祭りの原点は、2説があると言われている。一つ目は、厄年払いとは異なって度々長良川の氾濫によって災害が起こったことでその災害を逃れるために禊を行った。もう一つの説は、出雲大社から戻ってくる神様を迎えるために地元の人々が禊を行った。二つの説ともに水との関わりが深いので、裸男よりも水に浸かるという禊のほうが池ノ上みそぎ祭りの重要意義である。即ち、神を迎える神事から裸祭りに変貌した。

今後の課題は、子ども禰宜、大人禰宜及び子ども役の巫子がなかなか集まらないこと、及び祭典委員の高齢化である。地域の少子高齢、過疎化は、今後、「みそぎ祭り」の存続に大きく影響を与えているのは明らかである。北川委員長によると平成25年の禰宜は、1月に決めるはずだったが、なかなか決まらず、ようやく8月に決めた。多くの禰宜希望者から禰宜くじで選ぶことは、遠い昔のことになった。禰宜は名誉の役で、かつては希望者が多くて禰宜に選ばれるには、15年の歳月も要するとも言われた。また、少子化の加速による地域の子どもの数が減少して子ども禰宜、子どもの参加者及び巫子を集めるのは、非常に困難であった。平成26年からみそぎ始祭に小学生の巫女の神楽舞は廃止される予定である。今後、禰宜などの役は、池の上の氏子との限定のしきたりを外すなどの対策が迫られると考えられる。その他、更衣室や警備員の不足も多く裸男の希望者を受け入れない問題の一つである。裸男たちが国道を横断するため、安全面で多くの警備員が必要とされるが、過疎化によって警察の人員も減らされ、現在では地元との協力が一層必要となった。また、祭典委員会の役員たちの高齢化も一つ深刻な問題である。役員は、70歳以上の高齢者が6人中5人を占める。後継者がなかなか見つからないことに悩まされている。今後、祭りを拡大するよりもどうやって祭りを維持するかがより重要な課題である。

厄年儀礼の特徴・変遷及びその地域活性化に活かす方策
—岐阜市の池ノ上みそぎ祭りを事例として

松平誠（2008）は、「現在の都市マツリは、『遠心力』を持って人々と結びついている」と述べている。「みそぎ祭り」は、地元の人々を強く結びつける重要な役割を果たしていることは言うまでもない。池ノ上みそぎ祭りのような地元における重要な伝統文化の伝承が困難に直面しているという状況は、日本各地で見られる。それを乗り越える鍵は、「人」である。「人」がいるからこそ、伝統文化の伝承が続けられる。伝統文化を担ぐ「人」がいなくなれば、地域の文化も消滅してゆく。池ノ上みそぎ祭りから現在の日本社会が直面しているもっとも困難な「少子高齢、過疎化」問題の垣間を見ることができたとも言える。

参考写真



裸の子どもが長良川の禊場へ向かう



裸男たちが長良川の禊場に集まる



正禰宜（神男）が長良川で祈願



正禰宜（神男）が裸男たちによって胴上げ



禰宜（神男）が御神供を用意



神迎祭を終了後の直会（酒宴）

参考文献

- 飯沼健男『岐阜県内特殊祭典調』、手書きノート、大正四年～昭和十九年の調査資料。
清水昭男『岐阜県の祭りからⅡ』一つ葉文庫、pp. 15-40. 1988. 7. 29.
岐阜観光連盟『岐阜の主な行祭事』pp. 27. 昭和46年7月。
株式会社アドキットインフォケーション『岐阜咲楽』2010年、1月号。
岐阜市『岐阜市史通史編 民俗』大衆書房、昭和50年。
丸山幸太郎、北川偵治『池之上の歴史と禊祭』自費出版、平成5年12月。
松平誠『祭りのゆくえ 都市祝祭新論』中央公論新社、2008年3月。
尤銘煌『厄年儀礼による地域の活性化―三重県松坂市厄参り宝恵駕籠道中行列を事例として』、山形大学紀要（人文学科）、18（1）81-92, 2014年02月。
尤銘煌『厄年儀礼の特徴、変遷及びその地域活性化に活かす方策―愛知県名古屋市中村区岩塚町の「きねこさ祭り」を事例として』、山形大学紀要（人文科学）、17（4）85-95, 2013年02月。

謝辞

本論文は、平成23年度財団法人東海冠婚葬祭産業振興センター調査研究助成による「東海地域における厄年儀礼の特徴・変遷及びその地域活性化に活かす方策に関する調査研究」の一部である。東海冠婚葬祭財団の調査助成により実地の研究調査は、実現ができたことを心より感謝致します。また、今回の調査に協力して頂いた北川雅弘（池ノ上裸祭り実行委員会委員長、北川家資料館長）に心より感謝します。

調査時間：2013. 3. 6- 8、2014. 12. 7-9.

Insight, Transition and Measuring of Activity of the Local Population towards the Climacteric Ceremony - The Case of the “Misogi Festival” in Ikenoue Town, Gifu City

YU, Ming-Hwang

Abstract:

“Misogi Festival” is a traditional Japanese ritual festival. Participants are required to purify themselves by water, fire or cloth. Japanese people believed the “Misogi Festival” not only can purify their spirit and body, but also cleanse them of evil deeds and sins residing inside them.

I would like to analyze my findings concerning the process of transition affecting local communities, families and their relationships with relatives and their approach to religion in relation to the “Misogi Festival”. This research investigation will use the “Misogi Festival in Ikenoue town, Gifu city” as a case study.

For the seniors in the local area, the festival offers a special opportunity to express themselves spiritually, in a way preparing for their departure from the material world. On the other hand, due to many factors such as change in people's lifestyles, declining birth rate, increasing depopulation and growing indifference to religious events, the “Misogi Festival” has to undergo vast changes in order to survive in modern Japanese society.